

療マネジメント学会愛媛県支部学術集会を行いました。

今回の学術集会テーマは「地域協働の医療を目指して～高齢化社会を見据えた医療連携～」と致しました。特別講演としては病院経営の第一人者である相田俊夫先生(公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 代表理事 副理事長)に「急性期病院の経営戦略と地域医療機関との関係構築」で講演して頂き、愛媛県外からの参加者もある盛況でした。パネルディスカッションとして「都市部と周辺部、地域の実情に応じた適切な医療のあり方とは」のテーマにそって県内5施設からのパネリストに発表と討議をしていただきました。

一般演題は午前と午後の部に分かれ、40題を2会場の8ブロックで口演発表してもらい、活発な討論がされました。参加者は177名で、東予にも関わらず南予も含めた多くの参加者が集まり、当学会の重要性が認識されてきていると感じました。最後に今回の学術集会開催にあたりご協力をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。

第14回九州・山口連合大会

会長：JCHO人吉医療センター院長 木村正美

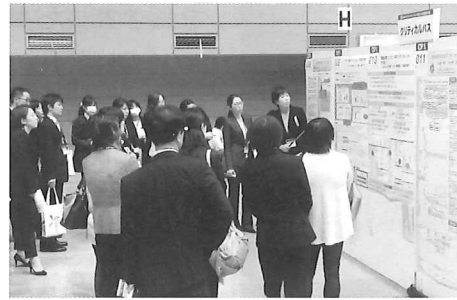


会場風景

2015年11月20日(金)、21日(土)の両日、日本医療マネジメント学会第14回九州・山口連合大会が人吉市カルチャー

パレス、人吉スポーツパレスで開催されました。「次代につなぐコミュニティヘルスケア～今、われわれは地域のために何をすべきか～」をテーマに講演、演題合わせて359題、1472名の参加を賜りました。参加者の皆様、ご協力ご協賛いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

初日朝の宮崎理事長の「基調講演」に始まり「総合診療医の育成」、「地域連携クリティカルパス」「医療と福祉の連携」、「日本医師会の取り組み」「国立病院機構の取り組み」「地域社会と神社」、「健康な組織と地域」、「地域の災害・救急医療」など地域をキーワードとした特別演題が続きました。2日目は会長講演を皮切りに「地域包括ケア」「地域医療構想」「多職種連携」「医療人の育成」「データに基づく地域医療の将来」、そして最後の市民公開講座「わが国社会の将来：地域包括ケアシステムと地域の力」(慶応大学 田中 滋先生)と「超高齢化社会



会場風景

における生き方と逝き方～尊厳死を理解する～(日本尊厳死協会 松根敦子様)、～自宅で大往生～(名田庄診療所 中村伸一先生)」

と盛りだくさんの内容でした。横倉義武日本医師会会長、桐野高明国立病院機構理事長、尾身 茂JCHO理事長、福島靖正厚生労働省健康局長等々、医療福祉関係の高名な先生方の出席を賜り素晴らしい講演や議論が展開されました。また、一般演題、クリティカルパス会場も沢山の参加者によるレベルの高い討議が活発に行われました。参加者のみなさまには大いに満足していただき有意義な情報を持ち帰られたものと思います。地方小都市の学術集会から地域の医療介護福祉の将来への情報発信ができたものと確信しています。

連合大会開催期間中の20日、21日のみが11月とは思えないほど暖かく、天候にも恵まれたため屋外広場で、解禁されたばかりのボジョレーヌーボーや球磨焼酎、豆腐の味噌漬けや鮎など人吉球磨の名物やB級グルメでミニ懇親会を行った後は、昨年人吉で撮影された看護学生の映画「スクール・オブ・ナーシング」が上映されました。その後、三々五々人吉の夜の街に繰り出し歓楽街が夜遅くまで賑わったそうです。また、大アリーナに準備した人吉の物産・土産売り場も多くの皆様に利用していただきたくさんお土産を買って帰っていただきました。

今回の連合大会には、九州中央リハビリテーション学院・人吉准看護学院・出水中央高等学校の3看護学校、人吉市役所、伊佐市役所、そして当院からたくさんの方のボランティアのサポートがありました。本当に手作り、手探りの連合大会だったと思います。地方小都市での初めての開催ということでご迷惑をおかけした部分もあったかと思いますが皆さまのおかげで盛会のうちに連合大会を終えることができました。ありがとうございました。

第9回宮崎県支部学術集会

学術集会会長：宮崎県立宮崎病院院長 菊池郁夫

2015年12月26日(土)に「JA・AZMホール」において、第9回の宮崎県支部学術集会を「職種間連携とチーム医療の今～何ができるようになって、何がまだできないのか～」のテーマにより開催し、252名の方々にご参加